LUZ の熊野古道案内

2008 年　11 月　上

11 月 1 日　～　7 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００８年１１月

11 月　１日　樵　昔の道具
11 月　２日　秋が深まってきた　小アジ
11 月　３日　本日取材のため休稿
11 月　４日　飛鳥神社の祭り　**1**
11 月　５日　飛鳥神社の祭り　**2**　餅撒き
11 月　６日　飛鳥神社の祭り　**3**
11 月　７日　飛鳥神社の祭り　４

2008年　11月　01日

熊野の旅　樵　昔の道具

昨日の続きです。

何しろ、レジャー施設のモニュメント的な日時計の巨大な柱を切り出すと言うことですから、それに応じた伐採の儀式をやったわけです。
昔は『山入り』の時にどうしていたのかと言うことを私に尋ねてきたくらいそうした儀式は消えてしまっています。

木々には神が宿り、まして、巨木・老木は神の寄り代とされてきた日本ですから、古くはかなりきちんとやっていたはずです。
私が現場を知るようになったのは１９６０年代になってからですし、子供の頃の記憶も１９５０年代がやっとですから、そんなに古いものは記憶にありません。
それでも、伐採が始まる日には、『先山（さきやま)』と言われる伐採人夫たちは山の入り口に集合して、入り口近くの大きな木を選んで、前に榊を立て、お神酒を供えて皆で拝んでいました。
そして、形だけ木に斧をいれ、その日はそのお神酒を飲んでお開きにしていたように記憶しています。
それが、段々バラバラでやるようになり、気にする人は自分でやる…程度になってしまい儀式ではなくなってしまいましたね。

儀式と言うか絵にするための『山入り』ですから、今流にチェーンソーでウィーン・バリバリ…と数分で倒してしまうわけには行きません。
そこで、それらしく見えるように借り出されたのが、チェーンソーが入ってくる前の木こりの道具です。

上から『ヨキ』・『鋸』・『クサビ』です。
この鋸は少し小振りですが、これだけの道具で木を倒して行きます。
もう一つ、腰にも小振りの『ヨキ』を差していました。
蔓を払ったり、楔を打ち込む金づちにしたり、倒した後で枝を払ったりするのに使うものです。
腰には『腰鋸』と言われる小型の鋸もぶら下げられていましたね。
『鋸』は山に応じ大きさを色々そろえていました。
そうそう・・・お尻には鹿やイノシシの皮で作った座布団のような物をぶら下げていました。
どっしり腰を下ろしてのこぎりを使いましたからね。

『先山』のいでたちは、今に比べると身軽な物でした。今のように大きなチェーンソーや燃料・オイルなんてありませんからね。
チェーンソーになっても『クサビ』と『腰斧』は昔の通り持っていますからね。
昔の先山が家から通うときに持っていたのは、二食分の弁当でした。
今のように軽四輪とかで通うのではなく、自転車とかですから現場までの時間が掛かり、早朝から出勤していましたし、重労働ですから一食ではたりなかったのです。

その頃の弁当は『めはり寿司』とか『わっぱ弁当』でした。おかずはほとんど無し、せいぜい『サンマの丸干し半匹』だったようです。
その『サンマの丸干し』も少しでおかずになるように、ものすごく塩辛くした『カンピンタン』だったようです。
稼ぎの良い『先山』でさえそんな状態です。
ご飯は一回で２合近く持って行ったようです。もちろん『麦飯』です。
稼ぎの少ない『山刈り』などは、『茶粥』の米や麦の粒の部分をかき集めて持って行ったそうです。家に残る人はその汁の部分をすすったとか聞きましたね。
そんな生活が昭和に入っても続いていたそうです。
アフリカやアジアの映像はほん少し前の日本の姿なのです。

話がずれてしまいましたが、この道具はそんなに古いものではなく、つい近年まで現役で使われていたものです。
立ったままの木の皮を剥いだり、杉の実を立ち木の上で採取したりする、文化財的な五郷の林業家の方から借りてきたようです。

Tags:熊野市 昭和 大又川

by **je2luz** | 2008-11-01 11:35 |

2008 年　11 月　02 日

熊野の旅　秋が深まってきた　小アジ

段々と日が短くなって来て、お腹が空くのが早くなってきました。

『定時』と言うものが無い生活を送っていますから、早く日が暮れるとお腹が早く空くようになっています。
ただ、昔の人のように、日の長さで生活のリズムが変わるのは『夕食』だけみたいです。
日の出に起き出すなんてありませんから、日の出の時間はまるで関係ないです。
寝るのも午前２時とかと言うのも何十年も変わりません。
お腹が空くからと言って、夕食をあまり早くすると午前２時までなんてお腹が持ちません。だから、夜食が欲しくなるし、食べない方が良いに決まっていますから、うんと我慢して夕食をなるべく遅くまで我慢します。
食欲の秋ですから、その延ばす一時間とかがものすごく待ち遠しいです。

これは今夜のおかず用の『小鯵』です。
秋口に比べ、売り場に並ぶ『鯵』が随分大きくなってしまいました。
この辺りで好まれるアジではそろそろ限界の大きさですね。
まだ、丸干しにはなりますけどそろそろ頭から骨まで食べちゃうには大きすぎになって来ています。
生（無塩・ぶえん）の物でも、頭からそっくり唐揚げに…と言うのも限界に近づいています。
『豆アジ』の時はほんの少しの腸とエラと両脇のぎざぎざを捨てるだけで全部お腹に入るのですが、ここまで来ると、普通の魚並みに捨てる所が増えて、60％とか50＆の歩留まりになってしまいます。

昔の酒飲みはこれを丸まま焼いて、ユズなど掛けて酒の肴にしていましたね。
今流に言えば、『炭火焼』『天然無農薬ユズ』『産地直送』の『アジの焼き物』ですね。
都会の小料理屋では一体いくらの値が付くのやら・…
田舎では今も昔も庶民の食べ物なのですがねえ…
うんと安いときにはどっさり買って自分で丸干しにする人もたくさんいたのですが、最近ではアジは少し高めなので、サンマの捕れ過ぎのとき位しか丸干しのすだれが普通の家の軒先に出現することはなくなりました。

私は酒も飲まないし…
畑の獅子唐などと一緒に天麩羅にしていただきます。
一応、熊野の秋らしいメニューです。

Tags:熊野市 熊野の味 昭和 by **je2luz** | 2008-11-02 12:27

2008年 11月 03日

熊野の旅　本日取材のため休稿

今朝目覚ましで目を覚ますと、外はどんよりした天気、少し雨も降っているようでした。
飛鳥神社のお祭りなのですが、どうしようかと随分迷ってから出かけました。
着いたのが１１時間、ちょこちょこスナップを撮って、１時の餅撒きも撮って帰ってきました。
よくやるのですが、ちゃんとカメラは持ち出しましたが、デジタルカメラを忘れて行きました。
今からモノクロのフィルムは現像します。

こんな状態ですから、本日はお休みになります。

Tags:熊野市 大又川 モノクロ by **je2luz** | 2008-11-03 15:04

2008 年　11 月　04 日

熊野の旅　飛鳥神社の祭り　1

１１月３日文化の日、熊野市飛鳥町の飛鳥神社の祭りがありました。
飛鳥神社は結構古い由緒ある神社だと言われています。
大又川のほとりにある、境内は狭いですがちょいといい感じのお宮さんです。
この飛鳥神社は旧飛鳥村の鎮守様です。お祭りは村の祭りだったわけです。
昔、私が子供だった頃には１２月１日に行われていました。
稲の取入れが遅かった時代、１１月のはじめごろにはまだ農作業が終わっていない家がたくさんありました。
農作業が終わって、ホット一息、収穫に感謝して行う村祭りですから１２月だったのだと思います。
それが、品種改良でどんどん作付けが早く、取り入れも早くなって農繁期が終わるのも早くなったので、寒い１２月ではなく、気候の穏やかな１１月、それも、曜日に関わらず祭日で公務員も休みの『文化の日』に移したのでしょう。

「文化に日」に移した飛鳥神社の祭りは毎年同じ日で納まっているのですが、「体育の日」にしてあった木本神社の祭りのほうは法の改正で「体育の日」が動き回るようになったので、祭りまで動き回ることになってしまいました。
まあ、「由緒ある祭り」等と言っても、その神事はどうしてもその時にやら無くても良いようです。
生きている人間の都合の方が優先されていますね。
おそらく、現代だけではなく、昔からこんな風に人間様の都合や思い付きで祭りと言う物はどんどん変化してきたのだと思います。

『木本神社』のお祭りは町場の祭りらしく、町中の行列が山です。見物人は町中で御輿やだんじりなどを見物しています。
それに引き換え、『飛鳥神社』の祭りは、田舎の祭りです。

練り歩くような町並みも無いので、何もかも神社の境内で行われます。
氏子や見物人はみんな神社に集まってきます。
飛鳥村全域から集まってきますから、人口の多かった私の子供の頃には足の踏み場が無い状態になったものです。

それに、１２月に入ってお祭りなどの少ない時でしたから、近郷の露天商の人も集まってきますから、一杯お店も並んでいました。今では露天商のお店はたった二軒だけでした。

祭りに付き物の「かたぬき」「風船」「おもちゃ」「ようよう釣り」など子供向けの物がありません。
子供たちの集まってきているのですが、如何せん数が少ないです。商売にはならないでしょうね。
その代わりに、ここの祭りでは各地区のご婦人方によるうどん屋などの店が並んでいます。

手作りの祭り屋台ですから、うどんも３００円と言うリーゾナブルな値段で、子供からお年寄りまですすっていました。

カメラは　　**オリンパスワイド・D ズイコー35mm**

Tags:熊野市 大又川 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-11-04 11:58

2008 年　11 月　05 日

熊野の旅　飛鳥神社の祭り　2　餅撒き

田舎の祭りなので境内での行事が殆どになりますが、一通りのものは用意されています。

当然、神主さんによる神事、神楽・獅子舞の奉納、浦安の舞…こじんまりとしていますが、どこでもある最低限の物は行われます。

神楽・獅子舞と浦安の舞は社殿前の石垣に上に仮設で作られる舞台の上で行われて見物人に良く見えるように配慮されています。

私が出かけたのは遅かったので、神楽も浦安の舞いも終わっていました。

祭りが１１月に早まったことでちょうど良くなったのが、七五三です。

祭りの神事が一きりついてから、七五三のお払いが行われます。

バラバラでポツポツ参拝するのではなく、まとめてやれるのですごく合理的です。

と、言っても…　その七五三の子供の数が…

多くて社殿に入りきらないのなら良いのですが、ほんの数名しかいません。
嬉しそうなじいちゃんばあちゃんに付き添われているのは、外に住んでいる飛鳥人の子供なのでしょうかね。そんなのも見かけられました。

飛鳥神社の祭りではこの子達の七五三がこの後での人気の行事の主役になります。

南紀では何かあると、寿司を作り、餅を撒きます。
飛鳥神社の祭りでも、一般見物人全部が参加できるのは『持ち拾い』です。
餅撒き用に用意されたやぐらから餅や袋菓子が撒かれ、それこそ老若男女大喜びで拾います。
昔ほど拾い手も多くないし、お年寄りが増えたので押し合いへし合いでは無く、それなりに庇いあって拾っていました。
やぐらの下に入ってカメラを構えるとちょうど良いアングルになります。
おまけに、前列の人に当たって転がってくる餅があるので、７個も拾えました。
昔は餅が転がると境内の腐葉土交じりの土がついて黒くなったのですが、今の餅撒きの餅は一個一個袋に入れてあるので転がってもきれいな物です。
撒く人が減っても拾う人も減っています。一人が撒く量は昔に比べると増えています。だから、一人当たり拾える量はうんと増えたようです。
この七五三の餅撒きは木本をはじめあちこちでこれから行われるはずです。
最近は親の仕事の関係で日曜日にする人が多いですから、今度の日曜９日とその次の１６日がピークでしょうね。
その日くらいにこの地方を歩いていて、人だかりがあったらしばらく待っていると『餅撒き』が始まります。
場所は神社だったり、個人の家の前だったりします。
餅拾いにはプロ軍団のような人もいます。
他所からこられた『素人』ではあまり数は期待できません。それでも、何個かは拾えると思います。
『七五三』の他にも初午の頃の『厄払い』、棟上式の『建前』などにも撒かれます。

家によっては誕生祝の『宮参り』でも撒きます。
上手く巡り会えれば、南紀の『餅撒き文化』に触れられるでしょう。
そして、ただで熊野土産が手に入ると思います

カメラは　　**オリンパスワイド・D ズイコー35mm**

Tags:熊野市 熊野の味 モノクロ

by **je2luz** | 2008-11-05 12:12

2008年　11月　06日

熊野の旅　飛鳥神社の祭り　3

全員参加のような『餅撒き』をピークに人々は家路につき始めます。

昔はもっとぐたぐたと時間を潰していたように思います。

だいいち、お酒が入ってそれこそグタグタになる人もたくさん見かけたのですが、今では酒気帯びの人すら見かけないほど控えていますね。

一家揃って重箱にご馳走を詰めてきて、神社の脇の川原や田圃でお昼ご飯を・・・なんて光景は、もう昔の話です。

婦人会？の作るうどんをすするのが精一杯と言った感じです。

昔は太鼓が置かれていて、適当に好きな人がたたいているような物でした。

一時期は太鼓ブームに乗って『小又子供太鼓』なんてのもありました、

しかし、今では太鼓を叩くチームもいなくなったらしく子供の太鼓は見かけませんでした。

素人が触る太鼓も置いていませんね。

その代わりに、プロではない本職？らしき人の奉納太鼓が叩かれていました。

最近の奉納出し物の多くがそうなのですが、参拝人優先の配置での演奏が多いですね。

以前に載せた花の窟のプロの出し物などは神様に尻を向けるシーンが多いので気にはなったのですが、この太鼓の演奏は観客に見せるために内陣をでて、社殿にお尻を見せない配置で叩いています。

奉納としては少しずれるような感じもありますが、これなら神様も納得してくれるでしょう。

これはお約束のような『浦安の舞の舞姫』の記念写真撮影の風景です。
昔と違い写真屋さんは居りません。
私も自分から申し出てまで記念写真なんて怖いものは撮りません。
しかし…
一生に一度か二度の晴れ舞台なのに携帯電話の写真の子もいます。
この光景はこれまた花の窟でも見られるのですが、『社務所』を背景に撮るんですよね。
ほんの１０ｍも移動すれば雰囲気の良い境内の木々をバックにスッキリした物が撮れるのに・・・と、思います。

七五三の子供の写真もちゃんとしたカメラで撮っているのが少ないですね。
携帯電話にカメラをつけたのは、日本の子供の思い出を消し去る方に役立っているような気がします。
写真を撮った気…記録を残した気…にさせているだけですからね。
デジタルカメラの人には『自家プリント』ではなく写真屋さんプリントにしておいてあげてください…と声を掛けるのが精一杯です。

余談ですが、この並んでいる椅子…『レジャー椅子』と言う商品です。
総桧作りで100Kgを越える体重の人が両足を上げてもびくともしないように部材を決めてあります。
設計が私で、テストは100Kgを超える同僚の理事で長期間にわたって行ってあります。
こうした屋内で使ってもらう分には200年でも残るでしょうね。

カメラは　　ミノルタα7700i+コシナ19～ズーム
Tags:熊野市 昭和　　by **je2luz** | 2008-11-06 11:56

2008年　11月　07日

熊野の旅　飛鳥神社の祭り　４

祭りと言うものの意味合いは随分時代によって変わってきたようです。
古代、最初にスタートした時はおそらくは単純に豊作などに感謝し自然や神の対する畏敬の念などが先にたったものでしょう。
社会生活が普及すると、それに人間の和や輪の要素が加わって、さらに、笛や太鼓が普及するとそれで賑やかに…
権力者が現れると、その権力者がこの祭りを利用したり禁止したりしたでしょう。
出し物も、人の交流と共に面白そうなものは少しずつ姿を変えながらどんどん広がって行ったのでしょう。
民間信仰的な部分以外ではよく似たものが増えていったのでしょうね。

全国的に見ると、限界集落が増えてきて、集落機能の麻痺と共に、鎮守様やお寺さんも氏子や檀家がいなくなってしまい、消え始めているようです。
飛鳥はまだまだ限界集落までは行っていません。

国道４２号線、309（169）号線が通る便利な場所と言うことで、少しは人口減少が遅れているようです。
しかし、もうすぐ『尾鷲熊野高規格道路』と言う自動車専用道路が海岸線の山をぶち抜いて通るようになります。
有料の高速道路でさえ出来ると旧道と分散されて寂れるのに、これは無料の物ですから、なおさらそうした感じになるでしょうね。
それでなくても、ポツポツしか車が走らない国道なのですからね。

今、こうした田舎を支えているのは、戦後から高度成長期に殆どの若者が都会に出て行った時代に田舎に残った『長男』の『跡取り』と、定年などでＵターンしてきた人たちです。
田舎に、家や少しの田圃があっても中々Ｕターンしてきませんね。
１５年や１８年住んだ田舎より、４０年５０年暮らした場所の方が馴染んでいるでしょうし、そちらで貰った嫁さんが年をとってから知らない土地、不便な土地について来てくれないようです。

かくして、お祭りの日に集まってくる人たちも平均して年をとって来ています。
私自体が老齢化して来ていますが、飛鳥に行くとまだまだ先輩方が一杯元気で集落を守っておられます。
長老としてではなく、現役としてというのが悲しい現実ですが・・・

Tags:熊野市 国道４２号線 モノクロ

by **je2luz** | 2008-11-07 11:57